

中国語を母語とする上級日本語学習者の 日本語発話の「強さ」についての一考察 —破裂音に着目して—

孔 令 玉

1. 研究背景

中国語を母語とする日本語学習者の日本語発話が、日本語母語話者の耳に「強く聞こえる」と言われることが多く、「中国人の日本語は怒っているか、けんかをしているようだ」という評価を耳にする。平野（2014）では、「中国語母語話者の日本語発話は語調が強く聞こえ、時として無礼な印象を与える」と指摘しており、侯（2005）では、「日本語母語話者の耳に聞こえる中国語母語話者の日本語発音は硬い」と指摘している。

日本語と中国語は共に高低アクセントの言語に属するため、強さは語の意味を区別する弁別的要素ではない。そのため、中国語母語話者の日本語発話の強さに関する先行研究は極めて少ない。しかし、非母語話者の立場から見ると、弁別的要素であるかどうかとは関係なく、母語話者のように「なめらかに流れているような感じ」で、自然な日本語を話したいというのは、多くの学習者の目指す目標だと言えよう。日本語発話の強さは日本語らしさに大きく関与し、自然な日本語を身に付けることを目指す中国語母語話者にとっては、注意すべき重要なポイントだと思われる。

ここで、「強く聞こえる」という「強さ」とは何かを考えてみたい。日本語発話が「強く聞こえる」と言われると、その原因は発話の物理的な強さや音の大きさ（音圧）にあるのではないだろうかと思われがちだが、実際、中国語母語話者は常に大きい声で日本語を話しているわけでもなく、特に大きい声で日本語を話さない場合でも「日本語発話が強い」という評価は大して変わらない。したがって、中国語母語話者の日本語発話が強く聞こえる原因については、音の大きさ以外の要素を考えなければならない。

従来の音声研究では、中国語母語話者の日本語発話をアクセントとイントネーションの面から分析するものがほとんどで、中国語母語話者の日本語発話の強さについて言及するものはほとんどない。

日本語の音声言語では、破裂音の生起頻度が全体の3～4割と高く、時間単位で見ると、破裂音を含む音節は0.8秒に一回という高頻度で生起している（山本 2009）。しかし、中国語標準語（普通話）の破裂音の体系は日本語のように有声と無声の対立ではなく、有気と無気の対立になっているため、中国語母語話者にとっては、日本語の破裂音の習得が難しいということはたくさんの先行研究で報告されている。破裂音の高い生起頻度と中国語母語話者の破裂音習得困難の現状を踏まえ、中国語母語話者の日本語発話が強く聞こえると評価される一つの原因は、破裂音にあるのではないだろうかと考えた。さらに、言語習得に対する学習者の母語の転移を考えると、母方言の破裂子音の体系に有声と無声の対立がない中国語北方方言話者の方が、他の方言を母方言とする学習者（以下「他方言話者」と称する）と比べ、日本語発話がより強く聞こえ、その原因も破裂音を通してより顕著に観察されるという仮説を立てた。本研究では、中国語母語話者の日本語発話を母方言別に分析し、破裂音に焦点を絞り、中国語母語話者の日本語発話の強さと破裂音との関係を考察する。

2. 先行研究

中国語の有気・無気破裂音と日本語の無声・有声破裂音に関しては、これまで数多くの研究成果が報告されており、中国語母語話者による日本語の無声・有声破裂音の習得に関する研究も少なくないが、中国語母語話者がよく言われる「日本語発話が強く聞こえる」ということに関する研究、また日中両言語において強さに関する研究報告は、現段階ではほぼ見当たらない。

朱 (2010) は、中国語話者を対象とする日本語教育の現場では、従来から「日本語の無声子音は語頭の場合では有気音として発音し、語中の場合では無気音として発音する」と言われてきたが、中国語話者の有気音の呼気の強さの平均値が日本語話者の無声音を大きく上回っており、語頭の無声子音を有気音で代用すると、日本語としては呼気が強すぎて喧嘩の口調に聞こえ、誤解を招く可

能性があると指摘している。中国語母語話者の日本語発話の強さを破裂音の発音の特徴から少し触れている。それ以外に、中国語母語話者の日本語発話の強さを破裂音の発音の特徴と関連付けて研究するものは見つからない。

3. 研究方法

3.1 仮説

まず、前文で述べたように、中国語母語話者の日本語発話の強さと破裂音との関係を明らかにするため、以下のように仮説を立てた。

- i 中国語北方方言話者の日本語発話は他方言話者と比べ、日本語母語話者に、より強く聞こえるのではないか。
- ii 日本語母語話者に「日本語発話が強く聞こえる」と評価される中国語母語話者は、音響分析の際、破裂音のバーストスパイクが日本語母語話者及びほかの中国語母語話者よりはっきりと現れているのではないか。

バーストスパイクとは破裂音を発音する際に、音声分析ソフトで見ると、スペクトログラムに観察される縦棒状のものである。破裂が強いと、バーストスパイクは濃く且つ太い線ではっきりと現れる。図1はスペクトログラムに観察されるバーストスパイクの様子の一例である

- iii 中国語北方方言話者の日本語発話に観察される破裂音のバーストスパイクは、他方言話者よりはっきりと現れているのではないか。

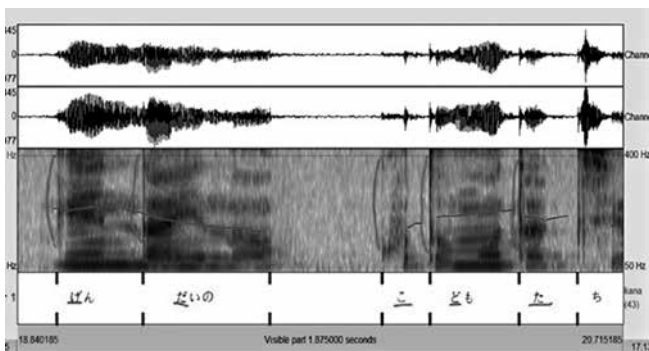


図 1

3.2 音声実験

上述の仮説を検証するため、音声実験を行った。

3.2.1 実験参加者

(1) 被験者

①学習者

大学在学中の中国語を母語とする留学生計22名（内訳：北方方言話者12名、他方言話者10名）、学習者データの詳細は表1と表2に、中国の方言区の地図を図2に示す。

表1 北方方言話者データ

北方方言話者（大学）						
学習者番号	性別	年齢層	出身地	中国での学習年数	日本滞在年数	日本語学習年数(合計)
1	女	30代	内モンゴル	0	12年	12年
2	女	20代	陝西省	1年	7年	8年
3	女	20代	山東省	9ヶ月	7年	7年9ヶ月
4	男	20代	山東省	0	4年	4年
5	女	20代	黒竜江省	3年	3年	6年
6	女	20代	黒竜江省	4年	6年	10年
7	男	20代	黒竜江省	2年	3年	5年
8	女	30代	山東省	8年	3年	11年
9	女	20代	黒竜江省	9ヶ月	7年	7年9ヶ月
10	女	20代	山東省	0	3年	3年
11	女	20代	山東省	4年	2年	6年
12	女	20代	遼寧省	2年	4年	6年

表2 他方言話者データ

北方方言話者（大学）						
学習者番号	性別	年齢層	出身地	中国での学習年数	日本滞在年数	日本語学習年数(合計)
13	男	20代	上海市	0	3年	3年
14	男	20代	上海市	1年	3年	4年
15	男	20代	江蘇省*	6ヶ月	3年	3.5年
16	男	20代	福建省	0	5年	5年
17	男	30代	上海市	0	7年	7年
18	男	20代	福建省	0	8年	8年
19	女	20代	上海市	9ヶ月	5年	5年9ヶ月
20	男	20代	江蘇省*	6ヶ月	2年	2年6ヶ月
21	男	20代	福建省	8年	2.5年	10.5年
22	男	20代	福建省	11ヶ月	2年	2年11ヶ月

(江蘇省*：江蘇省の蘇州方言地域)

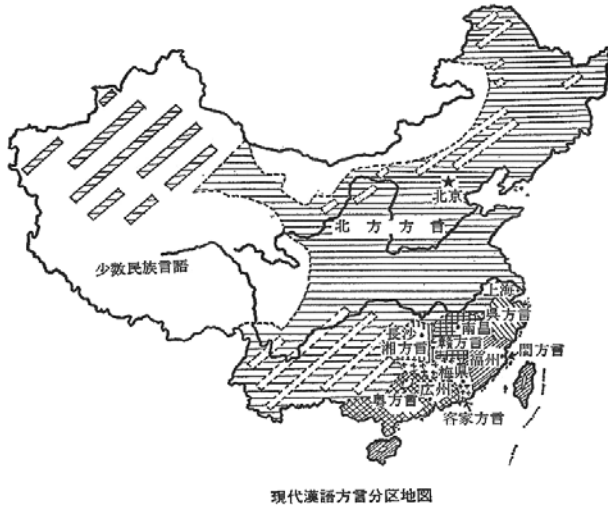


図2 中国の七大方言区 (樋口1983『現代漢語方言』光生館)

②母語話者

日本語母語話者2名(男女1名ずつ、20代、神奈川県出身)。

(2) 母語話者評価者

日本語母語話者4名(男性1名、神奈川県出身；女性3名、神奈川県出身2名、東京都出身1名、全員20代)である。

3.2.2 実験テキスト

・実験テキストの原文は以下の通りである。

日本では、進学、特に大学に入るための受験勉強が大変です。

入学試験は知識の量を測る問題が多いので、受験勉強は「暗記すること」が中心になってしまいます。

そのため、現代の子供たちは、自分の頭で考える力が弱いと言われています。(秋元・有賀(1996)『ペアで覚えるいろいろなことば 初・中級学習者のための連語の整理』武蔵野書院 P.43 コラム5「受験の弊害」一部抜粋)

この文章を実験テキストとして選ぶ理由は以下の通りである。

①破裂音の生起頻度が高い

116音節の短文に、破裂音を含む音節数は46で、破裂音の生起頻度が39.66%になり、文章全体の約4割を占めている。

②破裂音の種類が多い

実験テキストにおいて、破裂音を含む音節一覧を表3にまとめた。

山本(2009)により、日本語では [p] [b] [g] の生起頻度が極めて低く、[k] [t] の生起頻度が高いという。表3からわかるように、実験テキストには、生起頻度の高い [k] [t] を含む音節の現れるすべての音環境が揃い、そのうえ、生起頻度の低い [b] [g] を含む音節もいくつか含まれている。

表3 破裂音を含む音節一覧

/t/	/d/	/k/	/g/	/p/	/b/
[ta]	[da]	[ka]	[ga]		
		[ki]			
		[ku]			[bu]
[te]	[de]	[ke]	[ge]		[be]
[to]	[do]	[ko]			

3.2.3 実験方法

ア. 録音機材

OLYMPUS ICレコーダーVoice-Trek V-822 (サンプリングレート: 44.1 KHz)、外付けのコンデンサーマイクなし。

イ. 録音環境と録音時期

環境: 大学の端末室と教室

時期: 2016年7月

ウ. 録音前の準備

- ・まず、実験テキストの全ての漢字にルビを振り、プリントアウトする。
- ・次に、録音する際に読み間違えやつかえることのないように、被験者(特に学習者)に複数回、実験テキストの朗読の練習をさせた。
- ・最後に、実験テキストを読み上げる際に、句点のあとに1～2秒のポーズ

を入れて、文全体を普通に、自然に読みあげるようにと、被験者に指示した。

エ. 実験手順

(1) 被験者に実験テキストを音読してもらい、OLYMPUS ICレコーダー Voice-Trek V-822でwav形式に録音した。

(2) 学習者の音声データを4名の母語話者評価者に評価してもらう。

・評価内容：

発話文全体を通して、「強く聞こえる」あるいは「語気が強い」というふうに感じますか。

・評価基準：

- ①特に感じません
- ②気にならない程度ですが、少し感じます
- ③少し感じます
- ④感じます
- ⑤とても感じます

結果と考察

4.1 母語話者評価結果

被験者である学習者の音声データの母語話者評価結果を表4に示す。枠内の「1、2、3…」の数字は学習者番号を表す。また、評価基準の②～⑤に2人以上の評価者に共通して評価された学習者（以下「発話の強い学習者」と称する）を母方言別にまとめると、以下の図3になる。

表4 母語話者評価結果

評価基準	評価者1	評価者2	評価者3	評価者4
①特に感じません	1 2 5 7 8 9 10 13 14 20 22	1 2 4 5 7 8 10 13 22	1 5 6 10 11 13 16 22	1 2 5 11 15 16 18 22
②気にならない程度ですが、少し感じます	3 4 6 11 21	6 9 11	2 3 8 9 14 15	4 14 17
③少し感じます	12	3 12	4 7 12	13
④感じます				3 12
⑤とても感じます				

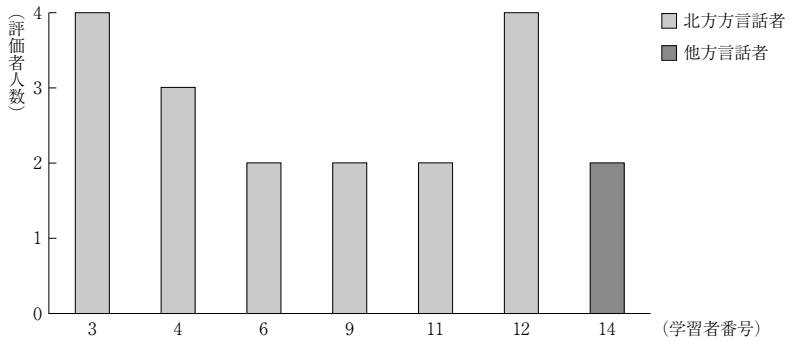


図3 発話の強い学習者と評価者人数分布

表4と図3からわかるように、発話の強い学習者のうち、北方方言話者の人数は6名で、学習者全員（22名）の27.2%を占めている。それに対して、他方言話者はわずか1名で、学習者全員の4.5%である。この結果により、仮説 i の「中国語北方方言話者の日本語発話は他方言話者と比べ、日本語母語話者に、より強く聞こえるのではないか」というのは、立証されると言えよう。

4.2 学習者の日本語発話の強さと破裂音との関係について

中国語母語話者の日本語発話の強さと破裂音との関係を明らかにするため、被験者である学習者の日本語発話について、音響的分析を行った。

4.2.1 分析データ

実験テキストから、破裂音が多く含まれている単語及び短文を計10コ（3.2.2の実験テキストに下線で表記されるもの）抽出し、分析データとする（表5）。

①～⑩の分析データに、音節数は合計63あるのに対して、破裂音を含む音節

表5 分析データ

①しんがく	②とく ₁ にだいがく ₂
③じゅけんべんきょうがたいへんです	④にゆうがくしけん
⑤ちしき	⑥そのため
⑦げんだいのこどもたち	⑧じぶんのあたまで
⑨か ₁ んがえるちか ₂ ら	⑩といわれています

中国語を母語とする上級日本語学習者の日本語発話の「強さ」についての一考察 71
 数は31で、割合で見ると49.21%になり、分析データの約半分を占めている。
 また、破裂音別に見ると、表3の全ての要素が含まれている。以上の理由により、
 学習者の日本語発話の強さと破裂音との関係を考察するには、①～⑩の語彙と短文は適切な表現だと考え、分析データに選んだ。

4.2.2 分析方法

被験者（学習者22名と日本語母語話者2名）による実験テキストの音読の録音を音声分析ソフトpraatにかけ、男女別に母語話者の分析データと比較しながら考察し、分析を行った。

4.2.3 分析結果

(1) 学習者全体からみる

母語話者評価で、発話の強い学習者による分析データの発話に観察される母語話者よりはっきり現れているバーストスパイクの数と内訳を表6に示す。それ以外の学習者（以下「その他の学習者」と称する）の分析結果を表7に示す。

①表6の合計の欄からわかるように、発話の強い7名の学習者は、破裂音を発音する時に生じるバーストスパイクが、母語話者より著しく数多くはっきり現れており、平均値の比率で見ると50.23%になる。つまり、発話の強い学習

表6 発話の強い学習者の分析結果

分析データ	破裂音を含む音節数	母語話者よりバーストスパイクがはっきりと現れている音節数						
		学習者3	学習者4	学習者6	学習者9	学習者11	学習者12	学習者14
①しん <u>が</u> く	2	1(が)	1(が)	1(が)	0	2(が、く)	2(が、く)	1(が)
②とく <u>に</u> だ <u>い</u> がく ₂	5	2(だ、が)	0	3(く1、だ、が)	1(だ)	2(く1、だ)	2(だ、が)	0
③じゅ <u>け</u> ん <u>べ</u> ん <u>き</u> ようがた <u>い</u> へ <u>ん</u> です	6	0	4(べ、きよ、が、で)	4(べ、きよ、た、で)	0	3(べ、きよ、が)	2(べ、が)	3(け、きよ、で)
④に <u>ゆ</u> が <u>く</u> し <u>け</u> ん	3	1(け)	2(が、く)	1(が)	1(け)	2(く、け)	2(が、け)	2(が、く)
⑤ち <u>し</u> き	1	0	1(き)	0	1(き)	1(き)	1(き)	1(き)
⑥ <u>そ</u> の <u>た</u> め	1	1(た)	0	1(た)	0	1(た)	0	0
⑦ <u>げ</u> ん <u>だ</u> いの <u>こ</u> ども <u>た</u> ち	5	4(げ、だ、こ、ど)	2(げ、た)	3(げ、こ、ど)	3(げ、こ、ど)	4(げ、こ、ど、た)	2(こ、ど)	2(だ、ど)
⑧ <u>じ</u> ぶ <u>ん</u> の <u>あ</u> た <u>ま</u> で	3	2(ぶ、で)	3(ぶ、で、た)	2(ぶ、で)	1(で)	2(た、で)	2(ぶ、で)	1(ぶ)
⑨ <u>か</u> ん <u>が</u> え <u>る</u> ち <u>か</u> ら	3	1(が)	1(か1)	2(か1、が)	2(か1、が)	3(か1、が、か2)	3(か1、が、か2)	1(が)
⑩ <u>と</u> い <u>わ</u> れ <u>て</u> い <u>ま</u> す	2	1(と)	2(と、て)	2(と、て)	1(と)	2(と、て)	2(と、て)	0
合 計	31	13	16	19	10	22	18	11

表7 その他の学習者の分析結果

分析データ	破裂音を含む音節数	母語話者よりバーストスパイクがはっきりと現れている音節数														
		学習者1	学習者2	学習者5	学習者7	学習者8	学習者10	学習者13	学習者15	学習者16	学習者17	学習者18	学習者19	学習者20	学習者21	学習者22
①しん <u>が</u> く	2	1(が)	1(が)	1(が)	0	2(が、く)	1(が)	0	1(が)	0	1(が)	0	1(が)	0	0	0
②とく <u>に</u> だ <u>い</u> がく	5	2(だ、が)	1(だ)	2(だ、が)	0	1(だ)	2(だ、が)	1(だ)	0	0	1(が)	1(が)	2(だ、が)	0	0	1(が)
③じゅ <u>け</u> ん <u>べ</u> ん <u>き</u> やうがた <u>い</u> べ <u>ん</u> です	6	1(が)	0	0	0	0	0	2(べ、で)	1(べ)	3(べ、が、で)	2(べ、で)	2(べ、で)	1(が)	1(べ)	0	0
④に <u>ゆ</u> う <u>が</u> く <u>し</u> けん	3	2(が、く)	1(け)	2(く、け)	1(く)	2(く、け)	0	1(く)	1(く)	0	1(く)	0	1(が)	0	0	2(が、く)
⑤ <u>ち</u> し <u>き</u>	1	0	0	1(き)	1(き)	0	0	0	0	1(き)	1(き)	1(き)	1(き)	1(き)	0	0
⑥ <u>そ</u> の <u>た</u> め	1	0	1(た)	1(た)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦ <u>げ</u> ん <u>だ</u> いの <u>こ</u> ども <u>た</u> ち	5	3(げ、こ、ど)	3(げ、こ、ど)	3(げ、こ、ど)	0	3(げ、こ、ど)	2(げ、ど)	3(こ、ど、た)	1(こ)	2(だ、ど)	1(ど)	2(こ、ど)	3(げ、こ、ど)	1(ど)	0	1(ど)
⑧ <u>じ</u> ぶ <u>ん</u> の <u>あ</u> た <u>ま</u> まで	3	1(で)	2(ぶ、で)	2(ぶ、で)	0	1(で)	0	1(た)	1(で)	2(ぶ、で)	0	0	0	0	0	1(ぶ)
⑨ <u>か</u> ん <u>が</u> え <u>る</u> ち <u>か</u> ら	3	3(か、が、か2)	2(が、が)	2(が、か2)	0	1(が)	2(が、か2)	2(か、か2)	1(が)	0	1(が)	0	1(が)	0	0	0
⑩ <u>と</u> い <u>わ</u> れ <u>て</u> い <u>ま</u> す	2	2(と、て)	2(と、て)	2(と、て)	0	2(と、て)	1(と)	1(て)	1(て)	0	0	2(と、て)	0	0	0	0
合 計	31	15	13	16	2	12	8	11	7	9	8	6	12	3	0	5

者は、分析データに含まれる破裂音の5割を母語話者より破裂が強く発音したということになる。この7名の学習者が、母語話者評価で「日本語発話が強く聞こえる」と評定された一つの原因は、破裂音を過剰に強く発音したことにあ
るのではないだろうか。

②表7のその他の学習者の合計の欄を見ると、その他の学習者は、母語話者よりバーストスパイクがはっきりと現れている音節数の平均値の比率は27.31%になる。

つまり、その他の学習者は、分析データに含まれる破裂音の中で、破裂を強く発音した数は、わずか3割り未満ということである。発話の強い学習者とその他の学習者の分析結果を有意水準5%で両側検定のt検定を行ったところ、 $t(20) = 3.33$ 、 $p = 0.003$ で有意差が認められた。

また、発話の強い学習者のように、破裂音の大半を過剰に強く発音することがなかったため、その他の学習者に属する15名の学習者は、母語話者評価で2人以上の評価者に共通して「強く聞こえる」と評定されなかったと言えるだろう。

以上の二つの分析結果を通して、仮説iiの「日本語母語話者に『日本語発話

が強く聞こえる』と評価される中国語母語話者は、音響分析の際、破裂音のバーストスパイクが日本語母語話者及びほかの中国語母語話者よりはっきりと現れているのではないか。」というの、立証されると言えよう。

(2) 学習者の母方言からみる

北方方言話者による分析データの発話に観察される母語話者よりはっきり現れているバーストスパイクの数と内訳を表8に、他方言話者のデータを表9に示す。

表8 北方方言話者の分析結果

分析データ	破裂音を含む音節数	母語話者よりバーストスパイクがはっきりと現れている音節数											
		学習者1	学習者2	学習者3	学習者4	学習者5	学習者6	学習者7	学習者8	学習者9	学習者10	学習者11	学習者12
①しんがく	2	1(が)	1(が)	1(が)	1(が)	1(が)	1(が)	0	2(が、く)	0	1(が)	2(が、く)	2(が、く)
②とくにだいがく2	5	2(だ、が)	1(だ)	2(だ、が)	0	2(だ、が)	3(く1、だ、が)	0	1(だ)	1(だ)	2(だ、が)	2(く1、だ)	2(だ、が)
③じゅけんぺんきょうがたいへんです	6	1(が)	0	0	4(べ、きよ、が、で)	0	4(べ、きよ、た、で)	0	0	0	0	3(べ、きよ、が)	2(べ、が)
④にゅうがくしけん	3	2(が、く)	1(け)	1(け)	2(が、く)	2(く、け)	1(が)	1(く)	2(く、け)	1(け)	0	2(く、け)	2(が、け)
⑤ちしき	1	0	0	0	1(き)	1(き)	0	1(き)	0	1(き)	0	1(き)	1(き)
⑥そのため	1	0	1(た)	1(た)	0	1(た)	1(た)	0	0	0	0	1(た)	0
⑦げんだいのこともたち	5	3(げ、こ、ど)	3(げ、こ、ど)	4(げ、だ、こ、ど)	2(げ、た)	3(げ、こ、ど)	3(げ、こ、ど)	0	3(げ、こ、ど)	3(げ、こ、ど)	2(げ、ど)	4(げ、こ、ど、た)	2(こ、ど)
⑧じぶんのあたまで	3	1(で)	2(ぶ、で)	2(ぶ、で)	3(ぶ、で、た)	2(ぶ、で)	2(ぶ、で)	0	1(で)	1(で)	0	2(た、で)	2(ぶ、で)
⑨かんがえるちから	3	3(か1、が、か2)	2(か1、が)	1(が)	1(か1)	2(が、か2)	2(か1、が)	0	1(が)	2(か1、が)	2(が、か2)	3(か1、が、か2)	3(か1、が、か2)
⑩といわれています	2	2(と、て)	2(と、て)	1(と)	2(と、て)	2(と、て)	2(と、て)	0	2(と、て)	1(と)	1(と)	2(と、て)	2(と、て)
合計	31	15	13	13	16	16	19	2	12	10	8	22	18

平均値の比率で見ると、北方方言話者は44.09%になり、他方言話者は23.23%になる。北方方言話者と他方言話者の分析結果を有意水準5%で両側検定のt検定を行ったところ、 $t(20) = 3.20$ 、 $p = 0.005$ で有意差が認められた。

この結果により、仮説iiiの「中国語北方方言話者の日本語発話に観察される破裂音のバーストスパイクは、他方言話者よりはっきりと現れているのではないか」というのは、立証されると言えよう。

表9 他方言話者の分析結果

分析データ	破裂音を含む音節数	母語話者よりバーストスパイクがはっきりと現れている音節数									
		学習者13	学習者14	学習者15	学習者16	学習者17	学習者18	学習者19	学習者20	学習者21	学習者22
①しん <u>が</u> く	2	0	1(か)	1(か)	0	1(か)	0	1(か)	0	0	0
②とくに <u>だ</u> いがく	5	1(だ)	0	0	0	1(か)	1(か)	2(だ, か)	0	0	1(か)
③じゅげん <u>べん</u> きょうがたい <u>へん</u> です	6	2(べ, で)	3(け, きよ, で)	1(べ)	3(べ, が, で)	2(べ, で)	2(べ, で)	1(か)	1(べ)	0	0
④に <u>ゆう</u> がく <u>し</u> けん	3	1(く)	2(が, く)	1(く)	0	1(く)	0	1(か)	0	0	2(が, く)
⑤ <u>ち</u> し <u>き</u>	1	0	1(き)	0	1(き)	1(き)	1(き)	1(き)	1(き)	0	0
⑥ <u>そ</u> の <u>た</u> め	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦ <u>げん</u> だいの <u>こ</u> ども <u>た</u> ち	5	3(こ, ど, た)	2(だ, ど)	1(こ)	2(だ, ど)	1(ど)	2(こ, ど)	3(げ, こ, ど)	1(ど)	0	1(ど)
⑧ <u>じ</u> ぶんの <u>あ</u> た <u>ま</u> で	3	1(た)	1(ぶ)	1(で)	2(ぶ, で)	0	0	0	0	0	1(ぶ)
⑨ <u>か</u> んが <u>え</u> る <u>ち</u> か <u>ら</u>	3	2(か1, か2)	1(か)	1(か)	0	1(か)	0	1(か)	0	0	0
⑩ <u>と</u> い <u>わ</u> れて <u>い</u> ます	2	1(て)	0	1(と)	1(て)	0	0	2(と, て)	0	0	0
合 計	31	11	11	7	9	8	6	12	3	0	5

5. まとめ

本研究では、中国語母語話者の日本語発話が日本語母語話者に「強く聞こえる」ということについて、破裂音に着目し、音声実験と音響的分析を通して中国語母語話者の日本語発話の強さと破裂音との関係を考察した。その結果、以下のことが明らかになった。

- (1) 中国語北方方言話者の日本語発話は他方言話者と比べ、日本語母語話者に、より強く聞こえる。
- (2) 日本語母語話者に「日本語発話が強く聞こえる」と評価される中国語母語話者は、音響分析の際、破裂音のバーストスパイクが日本語母語話者及びほかの中国語母語話者より数多く、はっきりと現れている。
- (3) 中国語北方方言話者の日本語発話に観察される破裂音のバーストスパイクは、他方言話者より数多く、はっきりと現れている。

以上の結果を踏まえ、中国語母語話者の日本語発話が強く聞こえる一つの要因は、日本語発話における生起頻度の高い破裂音を過剰に破裂が強く発音することにあると言えるのではないだろうか。

6. 今後の課題

本研究では、中国語母語話者の日本語発話を文単位で日本語母語話者に評価してもらうため、破裂音がその破裂音を含む音節における位置（語頭・語中・語尾）を考察の要素としなかった。また、考察と分析は破裂音のバーストスパイクに焦点を絞って行ったため、有声と無声の区別をしなかった。今後の課題として、統計的にもっと意味のあるデータを得るように、分析対象者の人数を増やし、録音条件をさらに考慮した実験を行う予定である。また、習熟度別に中国語母語話者の日本語発話の強さと破裂音との関係を考察するため、中級、初級レベルに当たる学習者のデータも収集し、有声破裂音と無声破裂音に分け、男女差の影響も視野に入れ、中国語母語話者の日本語発話の強さと破裂音との関係を明らかにしたい。

本研究をもって、中国語を母語とする日本語学習者、特に中国語北方方言話者に、破裂音が日本語音声言語において重要であることを気づいてもらいたい。また、日本語母語話者に「強い」と感じさせないような、自然でなめらかな日本語を身に付けることを目指す学習者に、本研究が少しでも役に立つことを期待する。

参考文献

- 秋元美晴・有賀千佳子（1996）『ペアで覚えるいろいろなことば 初・中級学習者のための連語の整理』武蔵野書院
- 王伸子（1999）「中国語母語話者の日本語音声習得を助ける中国語方言」『音声研究』3（3）、36-42
- 侯銳（2005）「日本語アクセントと中国語声調の比較—日本語話者の中国語声調問題をめぐって」『新潟経営大学紀要』11、137-145
- 朱春躍（1994）「中国語の有気・無気子音と日本語の無声・有聲子音の生理的・音響的・知覚的特徴と教育」『音声学会会報』205、34-62
- （2001）「中国語話者の日本語音声およびその指導」『ことばの科学』10、15-42
- （2010）『中国語・日本語音声の実験的研究』くろしお出版

- 杉藤美代子・神田靖子（1987）「日本語話者と中国語話者の発話による日本語の無声及び有声破裂子音の音響的特徴」『大阪樟蔭女子大学論集』24、1-17
- 西郡仁朗・小松恭子・尾崎和香子・馮秋玉（2004）「中国人初級日本語学習者の有声音・無声音の知覚について—マルチメディア教材の開発と学習効果？」『日本語研究』23、31-45
- 日本語教育学会編（2005）『新版日本語教育事典』大修館書店
- 樋口靖（訳）・詹伯慧（著）（1983）『現代漢語方言』光生館
- 平野宏子（2014）「『総合日本語』の授業で行うゼロ初級からの音声教育の実践—アクセント、イントネーションの自然性を重視した視覚化補助教材の使用」『国立国語研究所論集』7、45-71
- 福岡昌子（1995）「北京語母語話者と上海語母語話者を対象とした日本語有声・無声破裂子音の横断的習得研究（水谷信子先生退官記念号）」『言語文化と日本語教育』9、201-215
- （2011）「中国（北京・上海方言）および韓国（ソウル方言）日本語学習者の破裂音習得：知覚と生成における共通性と相違性」『三重大学国際交流センター紀要』6、11-29
- 福森貴弘（2010）『基礎からの日本語音声学』東京堂出版
- 望月八十吉（1971）『中国語研究学習双書13 中国語と日本語』光生館
- 山本富美子（2009）『第二言語の音韻習得と音声言語理解に關与する言語的・社会的要因』ひつじ書房
- 劉佳琦（2005）「中国（北方・上海）方言話者による日本語有声・無声破裂音の知覚に関する一考察—初級学習者を対象として—」『早稲田大学日本語教育研究』6、79-89